

報道関係各位

“ただのいびき”で終わらせない、睡眠の異変を医療につなげる時代へ フィリップス・ジャパン、「睡眠の日」に向けたメディアラウンドテーブルを開催

～クリニックフォアグループ CMO 村丘 寛和先生が、
睡眠時無呼吸症候群（SAS）の早期発見・治療の重要性と睡眠医療の新たな導線を解説～

株式会社フィリップス・ジャパン（本社：東京都港区、代表取締役社長：安部 美佐子、以下 フィリップス）は、2026 年 9 月 2 日（水）に、フィリップス・ジャパン麻布台本社にて、9 月 3 日の「睡眠の日」に向け、睡眠時無呼吸症候群（以下、SAS）の早期発見・早期治療の重要性をテーマとしたメディアラウンドテーブルを開催しました。

SAS は、睡眠中に何度も呼吸が止まる、または浅くなる疾患であり、放置すると高血圧や糖尿病、心血管疾患などのリスク上昇に関わるほか、日中の眠気や注意力低下による労働生産性の低下、交通事故リスクにもつながる可能性があります。

国内には潜在患者が 900 万人以上いるともいわれる一方、働き盛り世代では受診や検査が後回しになりやすい傾向があります。近年はオンライン診療や在宅検査の普及、「睡眠障害」標榜の開始、CPAP 治療適用基準の拡大・緩和など、早期に医療へつながるための環境が広がりつつあります。

本メディアラウンドテーブルでは、クリニックフォアグループ会長 CMO 兼 クリニックフォア田町院長の村丘 寛和先生をお招きし、SAS が見過ごされやすい背景、働き盛り世代に潜む健康リスク、受診・検査から治療までの流れについて、医療現場の視点からご講演いただきました。

また、在宅検査機器・CPAP 機器を用いたデモンストレーションを通じて、SAS の検査・治療の具体的なイメージを紹介しました。



【「睡眠の日」に向けたメディアラウンドテーブル】 開会挨拶とともに、SAS の早期発見・受診につなげる重要性を紹介

イベントの冒頭では、株式会社フィリップス・ジャパン 代表取締役社長 安部 美佐子が開会の挨拶を行い、フィリップスの歴史やヘルステクノロジー企業としての取り組みを紹介しました。安部は、SAS の認知度が高まりつつある一方で、自覚症状があっても受診行動に至らないケースがあることに触れ、潜在患者の「気づき」を「受診」につなげることが、健康を守る第一歩になると説明しました。



代表取締役社長 安部 美佐子

クリニックフォアグループ CMO の村丘先生が SAS の早期発見・治療の重要性と、受診・検査につながる新たな導線を解説

クリニックフォアグループ会長 CMO 兼 クリニックフォア田町院長の村丘 寛和先生が登壇し、SAS は単なる「いびきの問題」ではなく、命と日中の生活の質に関わる疾患であると説明しました。国内では中等症以上の潜在患者が 940 万人いる一方、CPAP 治療を受けている患者は約 73 万人にとどまり、9 割以上が診断・治療にたどり着いていない現状を紹介しました。

また、SAS になりやすい人の特徴や受診の目安となるセルフチェック項目を紹介し、SAS を放置した場合の高血圧や心疾患、脳卒中、交通事故などのリスクについても説明しました。

どんな人が SAS になりやすいの？

どんな人が睡眠時無呼吸症候群（SAS）になりやすいの？

睡眠時無呼吸症候群（SAS）は、睡眠中に呼吸が止まる病気です。気づかずにいると、命や健康に大きな影響を与えます。

- 肥満体型の方**
肥満体型の方は、舌の位置や喉の構造が、呼吸の妨げになりやすくなります。
- 中高年の男性**
中高年の男性は、年齢とともに喉の筋肉が弱くなり、呼吸の妨げになりやすくなります。
- 閉経後の女性**
閉経後の女性は、ホルモンの変化で、呼吸の妨げになりやすくなります。
- あごが小さい方**
あごが小さい方は、舌の位置が喉の奥に入りやすくなり、呼吸の妨げになりやすくなります。
- 家族・喫煙習慣のある方**
家族に SAS の患者がいる方や、喫煙習慣のある方は、SAS のリスクが高くなります。

出典：JCOM 2018「オンライン診療・睡眠時無呼吸症候群（SAS）」作成サイト図説

7つのセルフチェック

睡眠時無呼吸症候群（SAS）セルフチェック

睡眠時無呼吸症候群（SAS）は、睡眠中に呼吸が止まる病気です。気づかずにいると、命や健康に大きな影響を与えます。

- ☐ いびきや呼吸が止まっていることを家族から指摘されたことがある
- ☐ しゃべり続けているはずなのに意識がとれない
- ☐ 寝中に苦しくて目が覚めることがある
- ☐ 日中に強い疲労がある
- ☐ 朝起きると喉が乾燥している
- ☐ 朝起きると頭痛がある
- ☐ 高血圧がある

出典：JCOM 2018「オンライン診療・睡眠時無呼吸症候群（SAS）」作成サイト図説

判定方法

1つでも「はい」があった場合には、SAS 外来の受診をおすすめいたします。

とくに①の方へ

ご家族から指摘されたことがある方は、ご自身の自覚がなくても優先して検査をご検討ください。この病気は、他人からしか見えないからです。

“ただのいびき”では、済まされない

症状がない人と比べたときの、SAS患者のリスク

高血圧		約2.9倍	Peppard PE, et al. NEJM 2000; 343(21): 3781-3788
心臓突然死		約2.6倍	Gami AS, et al. JAMA 2004; 292(12): 1523-1528
脳卒中		約2.9倍	Hallin ML, et al. JAMA 2002; 288(12): 1581-1586
交通事故		約2.4倍	Troger L, et al. J Clin Sleep Med 2009; 5(5): 453-458

SASは「睡眠の病気」ですが、体で起きているのは脳神経への持続的な負荷です

※脳卒中は男性での結果（女性では本症で有意な関連は示されていません） / いずれも症状のない方と比較したときのリスク

村丘先生 講演資料より一部抜粋

さらに、クリニックフォアグループにおける対面診療（保険診療）でのSAS月間受診者数が、2020年7月から2026年6月にかけて約8倍（出典：クリニックフォアグループ調べ ※倍率は2020年7月と2026年6月の単月比較）に増加していることに触れ、これは「患者が増えた」のではなく、相談先を見つけた潜在患者が顕在化している状況であると説明しました。

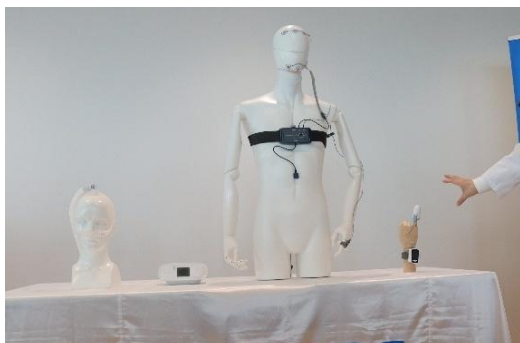
働き盛り世代では、平日日中に時間が取れない、入院検査に心理的な負担がある、どこに相談すべきか分からないといった理由から、受診が後回しになりやすいと指摘し、SASはこれまで医療につながりにくい構造があったと説明しました。そのうえで、「オンライン診療や在宅検査に加え、2026年6月には『睡眠障害』標榜の解禁とCPAP治療の保険適用基準の緩和が同時に施行され、受診や治療の入り口が広がった。いびきや眠気を年齢や疲れのせいと片づけず、一度相談してほしい」と呼びかけました。



在宅検査機器・CPAP機器のデモンストレーションを通じて、検査・治療について紹介

本イベントでは、SASの検査・治療への理解を深めるため、在宅検査やCPAP治療の流れについて、実機を用いた説明を行いました。睡眠検査については、現在では自宅に届いた機器を用いて、普段の就寝環境で測定できる方法も広がっており、受診・検査に対する心理的なハードルを下げる選択肢の一つとして紹介されました。

また、CPAP 治療については、睡眠中にマスクを装着し、機器から空気を送り込むことで気道がふさがれるのを防ぐ治療であることを説明しました。装着当初は違和感を覚える場合もある一方で、継続的な使用により徐々に慣れていく方も多いと紹介されました。



開催概要

■日時：2026 年 9 月 2 日（水）14:00～15:00

■会場：フィリップス・ジャパン麻布台本社

（東京都港区麻布台 1-3-1 麻布台ヒルズ森 JP タワー15 階）

■登壇者：

- ・クリニックフォアグループ会長 CMO 兼クリニックフォア田町院長 村丘 寛和 氏
- ・株式会社フィリップス・ジャパン 代表取締役社長 安部 美佐子

フィリップス・ジャパンについて

株式会社フィリップス・ジャパンは、ロイヤルフィリップスの日本法人として 1953 年に創業以来、革新的な技術を通じ、人々のより良い健康と満ち足りた生活の実現を目指しています。主な事業領域は、画像診断、超音波診断、イメージガイド下治療、生体情報モニタ、ヘルスインフォマティクス、睡眠・呼吸治療、およびパーソナルヘルスと多岐に渡ります。ヘルステクノロジーのリーディングカンパニーとして、超高齢化が進む日本の医療・健康課題解決に向け取り組んでいます。

日本の従業員数は約 2,000 人、約 70 拠点でビジネスを展開しています。（<https://www.philips.co.jp>）

ロイヤルフィリップスについて

ロイヤルフィリップス（NYSE:PHG, AEX:PHI）は、革新的な技術を通じ、人々のより良い健康と満ち足りた生活の実現を目指す、ヘルステクノロジーのリーディングカンパニーです。

フィリップスの革新的技術は人々を中心に設計されています。先進的技術と医療従事者および消費者のインサイトを活用し、消費者にはパーソナルヘルスソリューションを、医療従事者とその患者様には病院や家庭でのプロフェッショナルヘルスソリューションを提供しています。

オランダに本社を置く当社は、画像診断、超音波診断、イメージガイド下治療、生体情報モニタ、ヘルスインフォマティクス、およびパーソナルヘルスの分野で世界をリードしています。フィリップスの 2025 年の売上高は 180 億ユーロ、全世界に約 64,800 人の従業員を擁し、世界 100 か国以上でビジネスを展開しています。フィリップスに関するニュースはこちらからご覧ください。

（<http://www.philips.com/newscenter/>）

医療機器および企業に関するお問い合わせ

株式会社フィリップス・ジャパン

コミュニケーション担当

press@philips.com